

# 名誉市民、元砂川市長 故中川徳男氏をしのぶ



砂川市名誉市民の中川徳男氏（94）が8月10日に逝去されました。

中川氏は、砂川町（現・砂川市）出身で、昭和17年～同57年までの40年間砂川市役所に奉職され、この間、総務部長や建設部長などを務められました。その後、昭和58年4月24日、第3代砂川市長に就任し、平成11年4月25日に勇退されるまでの4期16年の長きにわたり、市政の発展に大きな功績を残されました。就任以来、市民全体の幸せ

につながる生活の安定、環境整備ならびにふれ合いの心を基本理念として市政に民意が反映されるよう地域振興および住民福祉の向上に尽くされました。

砂川市が長年石狩川などの氾濫により甚大な被害を受けてきたことから、特に治水対策に意を注がれました。当時、国において石狩川流域での洪水調整池として遊水地事業が計画された際には、関係機関に対し積極的な誘致を展開するとともに、砂川遊水地の多目的利用を図るため、財団法人オアシスパーク協会を設立し、それらの運動により事業が着実に進み、平成7年に砂川遊水地が完成しました。さらに、遊水地へ流れ入るパンケ歌志内川が洪水により逆流することを防ぐため、パンケ歌志内川への河川トンネルの新設

を関係機関へ粘り強く働きかけた結果、平成10年に完成し、市民の長年の悲願であった治水対策が完成に至りました。また、環境庁の快適環境都市（アメニティタウン）の計画策定に名乗りを上げ、道内唯一のモデル地域と指定された後はアメニティタウン計画を基にしたまちづくりを着実に実行されました。

さらには、宮川地区の旧三井東庄社宅群の改良住宅への建替え事業の完成などによる住宅政策の充実、各小中学校の統合・改築による教育環境の整備、ふれあいセンター・福祉複合施設の建設などの社会福祉政策の充実、北海道子どもの国の世界の七不思議・砂川ハイウェイオアシスの完成による観光財産の創出など、現在の砂川市の骨格をなす施設整備や施策実施に大き

く貢献されました。

これらの地方自治の発展に尽力された功績に対し、平成12年に勲四等旭日小綬章を受章、同15年には、砂川市名誉市民に推挙されています。

中川氏のご功績をたたえとともに、在りし日の姿をおしのびいたします。



## 中川徳男氏 略歴

昭和2年10月30日 砂川町で出生  
昭和17年 砂川国民学校高等科卒業  
昭和17年 砂川市役所奉職  
昭和58年 砂川市長（4期）

## 【主な役職】

昭和58年6月13日～平成13年6月20日  
北海道子どもの国協会副理事長  
昭和61年4月1日～平成11年4月25日  
北海道B&G地域海洋センター連絡協議会会長  
平成元年5月29日～同11年4月25日  
北海道河川環境整備促進協議会会長  
平成3年7月18日～同11年4月25日  
全国アメニティ推進協議会副会長  
平成7年3月28日～同11年4月25日  
全国特別豪雪地帯市町村協議会副会長  
平成7年5月26日～同11年4月25日  
北海道市長会副会長  
平成9年6月4日～同10年6月3日  
全国市長会副会長  
平成9年7月30日～同12年3月31日  
石狩川振興財団理事長